



学校だより

さいたま市立浦和別所小学校
令和5年9月29日

〒336-0021 さいたま市南区別所2-5-34 Tel048-862-2775 Fax048-836-1584 URL <https://urawabescho-e.saitama-city.ed.jp>

目的と目標

校長 持木 信治

「暑さ寒さも彼岸まで」という言葉のとおり、あの厳しかった残暑はどこへやら。めっきり涼しく過ごしやすい季節となりました。現在は、気温や暑さ指数を気にせず、毎日外で元気に遊びまわっている子どもたち、体育の授業や休み時間が終わって外から帰ってくる時の表情が、とても満足そうで、見ているこちらもなんだか笑顔になってしまいます。



2学期は、実りの秋とよく言われます。穀物や果物の収穫が多くなることから言われる言葉ですが、学校現場でも実りの秋、2学期は、行事が多く、その行事を通して、子どもたちがひと回りもふた回りも大きくなる時期だと捉えています。ただ、私は、行事を行えば、それでよいのではなく、行事を「子どもたちが成長する絶好の機会」と捉え、行うにあたって「目的と目標」をきちんと分けて考えて、子どもたちに意識させることが大切であると考えています。例えば、10月末に控えている音楽会、「音楽を愛好する心情を育て、豊かな感性を養う」という全体の目的がありますが、それ以外に子どもたちと話し合っ「おうちの人に自分たちの素晴らしい歌声を聞いてもらい、成長した姿を見せる」という目的をもたせるとします。そうすると、次には、その目的を成し遂げるためには、何を頑張ろう…と目標を決めることになってきます。ここでは、例えば、高学年だったら「成長した姿を見せられるよう、毎回の練習で手を抜かず頑張ろう」や「素晴らしい演奏を聞かせるよう、毎日休み時間、音楽室で練習しよう」というような目標が出てくるかと思います。発達段階によって目的や目標は多少変わるでしょうが、とにかく「自分たちで決めた目的を成し遂げるために、目標を設定し、達成するための計画を立て、実行する」という経験をさせることが大切だと考えています。

こうすることで、「本番だけ頑張ればよい」という結果だけを求めるのではなく、「本番は、練習の成果を発揮するもの、だから本番に向けて取り組む過程が大切」と過程を大切にするという考え方になっていきます。本番は、毎回成功するとは限りません。もちろん、うまくいった場合は、自信になりますが、万が一、うまくいかなかった場合は、自信をなくすことになりかねません。結果重視だと、「私がやってきたことは、無駄だったのかなあ」という発想になってしまうかもしれません。しかし、過程重視であれば、本番うまくいかなかったとしても、本番に臨むまでの取組について評価することができますし、その取組について振り返り、「ここが少し足りなかった」「今度は、ここに注意して頑張ろう」と次への改善点のヒントにつながり、自分自身をさらに成長させる良い機会にもなります。このように、目的と目標を分けて考え、それぞれを意識して行事に臨むのとそうでないのでは、その後の伸びが大きく変わってくるのです。

「2学期は、行事が多く大変だ」と思っている人もいるかもしれませんが、でも、「大変」は、大きく変わることも捉えられます。行事が多いということは、子どもたちが大きく変わる（成長する）機会がたくさんあると捉え、私たち教職員は、子どもたちと行事に取り組んでいきます。子どもたちにとって実りの秋となるよう、ぜひ、ご家庭でも行事の本番だけではなく、その前と後の子どもたちの変化にも目を向け、声をおかけください。よろしく願いいたします。